

9 特色ある地いきの人々の生活



舟屋（重要伝統的建造物群）

	漁船の数(せき)	漁かく高 (t)
まいづる 舞鶴市	538	2363
みやづ 宮津市	356	1054
いねまち 伊根町	204	3123
きょうたんご 京丹後市	466	1500

各市町の漁船の数と漁かく高

〔2023 年 12 月 31 日現在、京都府漁業協同組合〕

1 京都府の特色ある地いき

調べる

漁業のさかな伊根町の人々の生活について調べてみましょう。

京都府全体の組合員数

1742 人

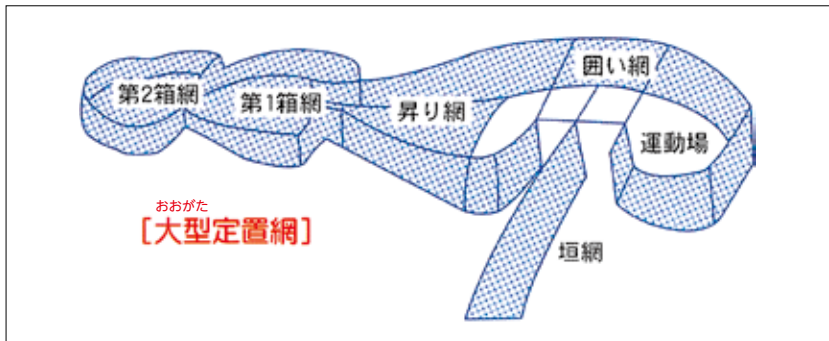
〔2024 年 3 月 31 日現在、京都府漁業協同組合〕

漁業のさかな伊根町

伊根町は、漁業のまちです。

海岸は切り立ったがけが多く、平地はほとんどありません。まちの人々は海岸にそった土地を利用してくらしています。

まちは港を取りかこむようにしてあり、「舟屋」とよばれる独特の家が続いています。1 階は船を入れるところで、2 階は住むこともできます。これは、先人が知恵を出してつくり出した建物です。



定置網漁業 沿岸の魚の通り道に網を設置・固定しておいて、魚を網の中にさそいこんでとります。

仕事の様子

伊根町では、定置網を使って魚をとる「定置網漁業」が行われています。ぶりのほかにあじ、いわし、いかなどをたくさんとっています。養しよくもさかんです。

漁業協同組合の人の話



最近、魚の量がへってきているので、「育てる漁業」にも力を入れています。たいの稚魚やあわび、さざえの稚貝を放流したり、

原木をコンクリートにつけてしずめ、魚をふやすためのすみかをつくったりしています。

また、へしこ、にぼし、みりんぼしなどの加工製品をつかって売り出すなど、地いきぐるみで漁業に力を入れています。



どんなふうにして魚をとるのか調べてみたよ。



きっと朝が早い生活なんだろうね。手紙を出してたずねてみよう。



いろんなことが考えられているんだね。



一夜ぼし



北山杉



みがき丸太

調べる

丹波高地の林業の様子を調べてみましょう。

山の仕事ってどんなことをしているのかな。

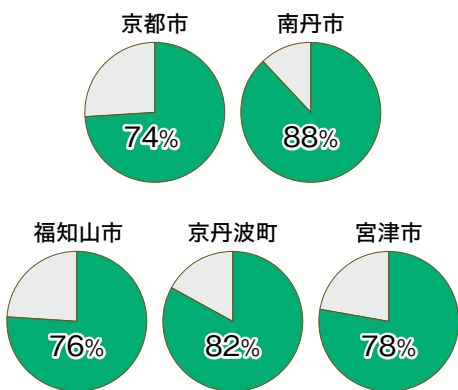
林業のさかんな丹波高地

京都府の真ん中には「京都の屋根」と言われる丹波高地があります。

気候は雨が多くて木の生長によく、昔からすぐれた木材を育ててきました。特に「みがき丸太」で有名な北山杉も生産されています。

主な地いき	森林面積	土地の広さ	森林のしめる割合
京都市	6 万 966ha	8 万 2783ha	74%
南丹市	5 万 4176ha	6 万 1640ha	88%
福知山市	4 万 2053ha	5 万 5254ha	76%
京丹波町	2 万 4966ha	3 万 309ha	82%
宮津市	1 万 3511ha	1 万 7274ha	78%

京都府の主な地いきの森林面積 京都府の森林の広さは 34 万 ha で日本で 27 番目です。



森林のしめる割合

仕事の様子



「山の仕事をしている人に話を聞いてみました。」



山の仕事をしている人の話

すぎやひのきのなえ木を植えたり、枝打ちや下草をかったりしています。春には、冬の間の雪でおれた木のなえを起こす作業も行います。

チェーンソーという機械を使うようになって、ずいぶん楽になりました。でも、長い時間使用すると、体によくないので、注意しなければいけません。

山の仕事はたいへんな作業も多いけれど、何年もかけた木がまっすぐ大きく育っていくすがたを見ると、やりがいを感じます。

今は安い外国の木材が入ってくるようになり、山の仕事だけではくらしにくくなりました。そこで、山でとれた山菜を加工したり、高冷地の特ちょうを生かした野菜づくりのくふうをしたりしています。

また、林道を整びしてハイキングや山歩きを楽しんでもらうなど、自然体験にも力を入れています。



山で働く人の様子

のこ 残したいもの つた 伝えたいもの

きれいな着物を
わたしも着てみた
いな。



👉ちりめんの反物



👉ちりめん



👉ちりめんの小物

たんご 丹後ちりめん

わたしたちの地方には、古くから伝わって
きた技術を使って、日本独自の伝統美をきず
いてきた丹後ちりめんがあります。丹後ちり
めんは、その地方の気候、風土をうまく生か
してつくられ、地場産業として今も大切に受
けつがれています。丹後ちりめんについて調
べてみましょう。

ちりめんはどの
ようにつくられる
のかな。



ちりめんをつく
るのに、どうして
この地方の気候が
よいのだろう。



な 奈良時代	あしぎぬという絹織物を奈良の朝廷にみつぎ物として持って いきました。その織物は今でも正倉院にあります。
え 江戸時代	京都の西陣から技術を学び、さらさらの絹の感しよくが最高 に発揮できる「しぼ」の技法があみ出され、ここから丹後ちり めんがスタートしました。
しょうわ 昭和時代	ちりめんがよく売れて、たくさん生産されました。多いとき は、1年に約1000万反も生産されました。
げんざい 現在	着物を着る人がへり、ちりめん生産が少なくなりました。新 しい製品の開発がさかんになりました。

👉丹後ちりめんのれきし

新しい製品を開発する人の話



今では白生地（しろきじ）の生産（せいさん）が年に31
万反（たん）あまりになってしまいまし
た。そこで、軽（か）くてやわらかな織
物（もの）である丹後ちりめんを日常（にちじょう）で
使（も）っていけるちりめん（ちりめん）にしよう（しよう）と考（かん）え、素（そ）材（ざい）を絹（きぬ）
からレーヨン、ポリエステルへと広（ひろ）げ、丹後（たんご）ポリ
エステルちりめんへとはってん（はってん）させました。

これまでの伝統（でんとう）と技法（ぎほう）を生（な）かしなが（なが）らもお客（お）様（さま）
に気（き）に入（い）ってもらえる商（しょう）品（ひん）の開（くわ）発（はつ）に努（つと）め、今（いま）
では、手（て）さげバ（ば）ッグ、ふろしき、けいた（けいた）いス（す）トラッ
プなどの小（せう）物（ぶつ）雑（ざつ）貨（か）を、デ（で）ザ（ざ）イン（いん）から染（せん）色（しよく）、仕（し）上（じやう）げ
まで手（て）がけ（が）て、全（ぜん）国（こく）のデ（で）パ（ぱ）ー（あ）ー（と）にお（お）ろ（ろ）していま
す。イン（いん）ター（たー）ネ（ね）ッ（っ）ト（と）によ（よ）るは（は）ん（ん）売（う）も（も）していま（いま）す。

高級（こうきゅう）イメ（い）ー（えー）ジ（じ）の丹（たん）後（ご）ちり
めんを日常（にちじょう）的に使（も）えるよう
にくふう（くふう）しているんだね。



小（せう）物（ぶつ）にはほ（ほ）かにど
んなもの（もの）があるのか
調（てい）べてみよう。

